

ふるさと 一生まれ育った地を次世代に託す

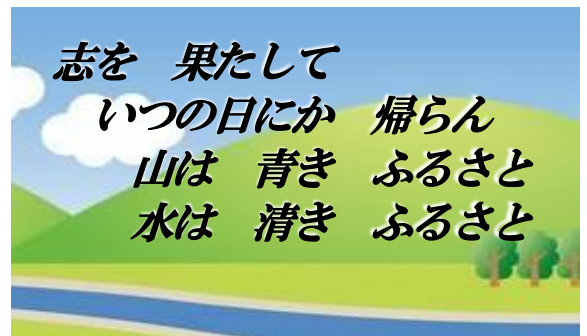
校長 寺井 進一郎

毎年、3月になると思い出すことがあります。12年前の3月11日の「東日本大震災」。当時、私は近隣市の教育委員会職員でした。予定されていた学校訪問（出張）で、ちょうど市内の小学校の研究授業を参観していた14時46分、それまで経験したことのないような激しい揺れが起こり、児童は皆、「キャー」という悲鳴・絶叫を發しながら、机に潜り込みました。大地震がやってきました。小学校の教職員とともに児童の避難を行った後、電話は一切通じず、電柱が倒れ、信号機も機能しない中、地割れした道路を何とか市役所（教育委員会）まで戻りました。その後、市内全小中学校・幼稚園の安全を確認した後、真夜中・明け方まで避難所の設営と運営に当たりました（この時から、その年の5月まで、ろくに家庭に戻れない状況が続くことになります）。

その後も市内の学校の被害状況の把握・復旧に奔走して1週間が経過した時、たまたま珍しく自宅で過ごすことができていた日曜日のこと、夕方のニュースを視聴していると、何と、自分が勤務している市に東北・福島県の町から（福島第一原子力発電所の放射線被害により）1200人余りの方が避難して来られるとの報道がありました。「これは…大変なことだぞ…」と思いながら、翌朝、教育委員会に出勤した私に、急な命令が下りました。「本日から教育委員会を出向し、緊急の組織「避難支援対策本部、行きを命ず。」この命令を受けて、この日から、私は、福島県の子供達の幼稚園、小・中・高等学校への受入れ担当となりました。「何で私が…」と思う間もありませんでした。時期は3月。2週間後には、200人超の子供達を、市内の各幼稚園、小・中学校、県公立または私立高等学校へ入園入学・転入転籍させねばなりません。前代未聞、全く前例のない一大事でした。毎日、増加して変動していく避難者の数。その中から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の、どの学年に、何人の幼児、児童、生徒がいるのか…毎日、避難所を駆け回っては、直接、避難者の方々に声を掛け、人数を確認、県と市の教育委員会に変動推移を報告し、指示を受け、受入先となる園・学校の校長に説明する。政府や国会から毎日のように要人が来るのを迎える、殺到するマスコミ各社の取材に応じる、支援物資やボランティアの方々を受け入れる。有事であるが故、睡眠時間も無い勤務時間度外視の対応に明け暮れる毎日でした。

でも、不思議と疲れは感じませんでした（これには訳があります）。3月中旬、廃校となった公立高等学校内の避難所のレイアウト（生活空間の配置）を行い、大勢の県庁・市役所の職員の方々と一緒に迎え入れる準備をし、一時的な待避先であった「さいたまスーパーアリーナ」から、避難所に1000人超の方々をお迎えした日のことです。避難して来られたばかりの町の教育委員会の教育長さんに挨拶に行ったとき、こんな言葉を掛けられました。「私達のふるさとを子供達に託したいのです…。どうか、子供達をよろしく願います…。」そして、涙を浮かべながら、私の手を握り締めてくださったのです。私は自分の仕事の責任の重さに身震いしました。この時、全ての疲労が吹き飛び、身体が軽くなるのを感じました（事の重大性を認識して強い使命感が湧き、疲れなど感じている場合ではないことを自覚できたのだと思います）。この教育長さんとの出会いは教えとなり、以後、私の教職人生は大きな影響を受けました。この年の3月から5月までの3か月間、福島県の皆さんのいる避難所に通い詰めたのですが、避難所の1室に簡易的に設営した町の教育委員会の教育長さんの席の後ろには、いつも、一枚の貼紙がありました。紙には、童謡「ふるさと」3番の歌詞が書かれていました。教育長さんの生き方、故郷への思いが伝わってきて、全身に流れる血液が熱く煮えたぎる感覚になりました。

以来、自身も自分の生まれ育った「ふるさと」に対する思いがより一層強くなり、さらには、その「ふるさと」を託す子供たちの教育に携わることの素晴らしさを再認識させられた気がします。私が今日、校長として学校を経営するようになった大きなきっかけとなった出来事・経験でした。奇しくも故郷に着任した今、私たちの大切な故郷を託すことのできる頼もしい次世代の若者を育てることができるよう、鋭意努力して参りたいと存じます。



童謡「ふるさと」3番の一節。「自分達の故郷を子供達に託す」という福島県から避難を余儀なくされた教育長さんの思いを探りながら歌を思い浮かべると、今も涙が出ます。

「中学生議会」への参加（生徒会本部役員）

2月2日（木）午後、本校の生徒会を代表して現生徒会本部役員3名が羽生市役所で行われた「中学生議会」に参加しました。この催しは「羽生市の広聴業務の一環として、市内中学生の市政に関する意見を聴取し、よりよい町づくりに生かしていく」という趣旨で行われるものです。流れは、実際の市議会さながらに「発言通告」「質問書提出」を経て本会議場での質問に至り、市長はじめ市の役職の方々に答弁をしてもらう形となっています。本校からは中学生議員として、生徒会長の〇〇〇〇さん（質問「LGBTQについて」）、副会長の〇〇〇〇さん（質問「清掃センターの将来について」）、〇〇〇〇さん（質問「羽生市の農業支援について」）が出席し、質問し、その答弁を受けました。定例市議会のプログラムを実体験したことで、今後の生徒会運営が質の高いものになることが期待されます。見事な中学生議員ぶりでした。



校外学習（2学年）

2月9日（木）2年生の「校外学習」を実施しました。この行事は、3学年1学期での「修学旅行」（奈良・京都方面）での班別行動を前に、2学年末に位置付けられた東京都内で班別行動のシミュレーションを行い、段階的に3か年の「旅行行事」を成功に導こうとするものです。当日は、大きなトラブルもなく、自分達が立てたプランに従って都内各所を巡って無事、羽生に帰着することができました。



県公立高等学校入学者選抜、定期テスト

2月22日（水）、24日（金）に、3学年は埼玉県公立高等学校入学者選抜を迎えました。また、1・2学年は、年度最後の定期テスト（第4回）を実施しました。双方とも、力を出し切ってくれたことと確信しています。

3月の行事予定

日	曜	予定	日	曜	予定
1	水	フッ化物洗口 卒業式全体練習、三年生を送る会準備	17	金	特別日課 期末保護者会（1・2学年）
2	木	三年生を送る会	18	土	
3	金	県公立高校入学許可候補者発表	19	日	
4	土		20	月	短縮日課 給食終了（1・2学年）
5	日		21	火	春分の日
6	月	県公立高校入学試験追検査	22	水	フッ化物洗口
7	火	全校除草 清掃引継ぎ	23	木	表彰集会 学年集会 大掃除
8	水	安全の日 県公立高校追検査入学候補者発表 フッ化物洗口	24	金	修了式
9	木	卒業式予行 給食終了（3学年）	25	土	
10	金	生徒会専門委員会・ノーメディアデー 短縮日課	26	日	
11	土	資源回収（PTA活動）※有志	27	月	学年末休業日
12	日		28	火	
13	月	短縮日課	29	水	
14	火	短縮日課 卒業式準備	30	木	
15	水	卒業証書授与式	31	金	
16	木	短縮日課			

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更する場合がございます